

## 港区探訪



## 落語の町を歩いてみれば

こがねもち

## 第六話（最終回）黄金餅～港区を歩く～

古典落語の中には港区を舞台とした噺が数多くあります。  
さまざまな落語の世界を通じて、江戸から続く港区の歴史と今を訪ねてみましょう。

## 落語「黄金餅（こがねもち）」あらすじ

——下谷の山崎町に西念（さいねん）という坊主がいた。

西念は、頭蛇（ずだ）袋をさげ江戸中を歩いてまわり、いい加減な念佛を唱えて金銭を得ていた。その金を貯め込み、きわめてケチに暮らしていたのだが、あるときちょっとした風邪が元で寝込んでしまった。

隣家の金山寺味噌売りを商売にしている金兵衛という男が見舞いに行くと、西念はあんころ餅が食べたいという。買ってきてやると、人が見ていると食べられないというので、金兵衛は家へ帰って、壁の穴から西念の様子をのぞいた。すると、西念はふとこころから胴巻きを出し、二分金、一分銀などをとり出して餅にくるんで次々に飲み込み、ついには餅をのどにつまらせて死んでしまう。

金兵衛は長屋の連中に知らせ、遺体をその夜のうちに麻布絶口釜無村（ぜっこうかまなしむら）の木蓮寺に持ち込んだ。そして、生臭坊主にてたらめなお経をあげさせ、天保錢6枚を払って焼場の切手をもらった。ついでに、寺の台所から鰯切（あじき）り包丁をこっそりと持ち出して、桐ヶ谷の焼き場へ向かう。

「遺言だから腹のところだけ生焼けにしてくれ」と頼み、翌朝、鰯切り包丁で西念の腹を裂いて出てきた金を持ってそのまま逃げた。

金兵衛はこの金で目黒に餅屋を出し、たいそう繁盛したという。これが江戸の名物、黄金餅の由来である。

※ あらすじを読むと不気味な噺ですが、人間の強欲を描いた古典落語として有名です。5代目古今亭志ん生や7代目立川談志は、この噺を十八番にしていました。



## 落語の豆知識

## 知って聞くとより楽しい落語用語

## 落語



元は「落ちのある話=落とし噺」が由来。

「落語」と呼ばれるようになったのは、明治半ばになってからのことでした。

着物を着た演者が一人で高座に座り、扇子や手ぬぐいのみを小道具に、登場人物の会話のやり取りを中心に行ないます。

言葉だけではなく、演者の表情や仕草が加わった話芸というわけです。

基本的には「マクラ」「本題」「オチ（サゲ）」で構成されています。

## マクラ

本題への導入部分で、本題のテーマに関わる話に限らず、時事ネタや日常的な出来事を交え、観客の関心を引きます。演者の個性が色濃く出る部分です。

## 本題

噺の本編のこと。

## オチ

「サゲ」とも言われる噺の締め。すべての落語にオチがあるのではなく、涙を誘う人情噺などにはないことも。落語家によって異なる聞きどころでもあります。

## 滑稽噺

笑いをメインにしたオチのある噺の総称。長屋を舞台にした「長屋噺」（本誌港区探訪第一話「小言幸兵衛」）、遊郭が舞台となつた「廓（くるわ）噺」、武家や大名が出てくる「大名噺」（第三話「井戸の茶碗」）、「武家噺」（第四話「首提灯」）など、舞台となつた場所や登場人物によつて細分化されます。

## 一. 新橋

「新橋」は汐留川に架けられた橋でしたが、今では橋があった場所の上に首都高速が走っています。汐留川は江戸城を築く際に外濠の一部として整備された川で、新橋はその頃に架けられたものです。



▲1964年の川の埋め立てで消失した「新橋」は親柱が残っています。

## 二. 愛宕下

愛宕山の山頂に建つ愛宕神社にある「出世の石段」。その下を通る道は、今でも「愛宕下通り」と呼ばれています。



## 人情嘶

ストーリー性があり、人情に訴えかける嘶の総称。第二話「芝浜」や第五話「徂徠豆腐」などがあげられます。

「人情嘶」の中でも、怖い嘶は「怪談嘶」に分けられ、今回の「黄金餅」などが該当します。

## 三. 神谷町

江戸時代に「神谷町」と呼ばれていた一帯は、1977年に「虎ノ門5丁目」となりましたが、神谷町駅の存在のおかげで、現在でも通称地名として残っています。



## 四. 永坂

飯倉片町の交差点から麻布方面へ向かう坂が「永坂」。以前は麻布飯倉片町、麻布永坂町、麻布新綱町があり、その3町の真ん中を「永坂」が走っていました。



## 五. 大黒坂

麻布十番駅の先、赤い靴の女の子（きみちゃん）像を過ぎると、緩やかな「大黒坂」に入ります。坂の中腹にある大法寺の大黒天にちなんだ名です。



## 六. 一本松

「大黒坂」「狸坂」「暗闇坂」「一本松坂」の合流点にある「一本松」。江戸時代にはこの木にちなんで、一本松町と名付けられた地区もありました。

## 七. 絶江坂

「麻布絶口釜無村の木蓮寺」は架空のお寺ですが、「絶江坂」があるように、このあたりが目的地だったようです。1654（承応2）年に移転してきた曹溪寺の初代和尚絶江の名から来ています。



監修：芝落語会会長 西田高光 参考文献：『増補 落語事典』東大落語会編／青蛙房、『まち探訪ガイドブック』俵元昭監修／港区産業・地域振興支援部、『競作かわら版 落語と江戸風俗』つだかつみ・中沢正人著／教育出版、『一冊でわかる落語ガイド』秋山真志監修／成美堂出版、『江戸落語の舞台を歩く』河合昌次著／東京地図出版、『江戸の坂』山野勝著／朝日新聞社



あの世にまで自分のお金を持っていこうと飲み込んだ西念と、隣人の見舞いにあんこ餅を買ってきてやるような普通の人だったのに、大金を見た途端それを自分の物にしようと必死になってしまう金兵衛が人間の欲深さを見事に表しています。

▲このページのトップへ

| サイトマップ | みなさんの声 | Kissポート財団について | 情報誌「Kissポート」について | 品質・環境への取り組み | 個人情報保護について[PDF] |

Kissポート財団

(公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団)

港区赤坂4-18-13赤坂コミュニティーふらざ  
電話：03-5770-6837/Fax：03-5770-6884 お問い合わせ：fureai-info@kissport.or.jp



このホームページはKissポート財団の公式ホームページです。このホームページのすべての権利は当財団に帰属します。当財団の許可なく複製、転載は出来ません。